

平成22年度 宮崎北中学校自己評価書・学校関係者評価書

目 標	評 価 項 目	評 価			考 察	改 善 - 策	学 校 関 係 者 評 価	
		生徒	保護者	教師			評定	所 見
自 主 性	生徒は、自ら進んで発表するなど、授業に意欲的に取り組んでいる。	37 38	37 49	36 64	○授業に対する積極的な取組に欠け、3者とも評価は低い。昨年来数値に大きな変化はないが、後半改善の兆しが見え始めた。「表現力育成」に取り組んできた研究の成果が表れつつある。 ○清掃や係活動に対する生徒の自己評価は高い。「グッジョブカード」や清掃コンクール等の手立てを取ると取組がよくなる。教師の評価も初めて5割を超えた。 ○ボランティア活動や各種検定試験に参加する生徒が増えている。	○表現力の育成を小学校との綿密な連携の下推進する。特に、授業中の姿勢や発表の声量など基本的な指導を共通実践し、徹底を図る。 ○清掃や係活動など「自ら気づき自ら改善しようとする」態度の育成に努める。 ○家庭とも連携しながら検定試験により多くの生徒がチャレンジするよう全校的な雰囲気づくりに努める。資格取得した生徒を賞賛する場を設ける。 ○生徒会のボランティア活動を校外にもPRし、意欲を高める。	B	○表現力の育成が課題である。小中共同実践による児童・生徒の変容を期待する。 ○無言清掃や係活動についての意識が高いのが本校の特色であり、新しい校風になっている。 ○漢字検定や英語検定などの検定試験受験者数が半数以上である。合格率も高く、中には高校生レベルの級に合格する生徒もいる。 ○生徒会のボランティア活動として、毎学期定期的に大淀川のゴミ収集活動を行っている。また、土曜日の朝登校し、学校周辺の清掃ボランティア活動に参加する生徒も多い。
	生徒は、清掃や係りの仕事など指示されなくともきちんとできている。	76 81	74 79	43 57				
	生徒は、自らを高めようと様々な活動に積極的に取り組んでいる(検定試験、ボランティア活動等)	42 56	46 54	29 64				
学 力 向 上	生徒は、家庭学習によく取り組み、その習慣がよく身につけている。	61 65	49 53	43 86	○個別指導の中で、家庭学習の在り方を指導した成果が徐々に表れてきているが、保護者の評価は依然として低い。 ○校外テスト等の分析や対策を学年・教科ごとに取り組んだり、全員が研究授業を行ったりして指導法の改善を図ったことが、高い評価につながった。 ○教師は授業外の個別指導等によく取り組んでおり、多くの生徒が満足している。	○家庭学習の定着を図るために、保護者との連携を深める。教育相談や個別指導を充実させ、個に応じた指導を推進する。 ○職員研修や研究授業を充実させ、授業力向上を図る。 ○諸検査・テストの分析→課題把握→対策の流れを定着させ、学力向上を図る。 ○市より配備されたTVや実物投影機などの視聴覚教具や外部講師の積極的活用を図り、授業改善を推進する。	A	○保護者の家庭学習についての評価が低いのは、もう少し自分から進んでやって欲しいという保護者の願いの強さを意味する。生徒の意識変革に迫る実践を期待する。 ○授業参観すると全ての教師が「分かる授業」の実践に心を砕いていることが分かる。これに応じて生徒も熱心に学習に取り組んでいる。 ○教師は、補充授業や個別指導については良く取り組んでいると自己評価している。放課後教師が個別指導を熱心に行っている場面をよく見かける。 ○教師は、校内外テストの結果を綿密に分析し、課題の把握に努め対応策を講じている。学力のレベルは着実に向上している。
	教師は、分かる授業のために教材・教具を活用したり指導方法の工夫・改善を常に行っている。	90 95	83 81	86 93				
	教師は、補充指導や個別指導など授業外でもきめ細かな指導を行っている。	94 91	71 79	100 93				

(評価・評定の規準：A：大変よい B：よい C：もう少し D：改善の必要あり / 数字はAとBの合計% 上段：H22 7 下段：H22 12)

平成22年度 宮崎北中学校自己評価書・学校関係者評価書

目標	評価項目	評価			考察	改善策	学校関係者評価	
		生徒	保護者	教師			評定	所見
体力向上	生徒は、部活動に熱心に取り組み、技術や体力を向上させようと努力している。	83 82	87 88	93 100	○77%の生徒が部活動に加入しており、それ以外の生徒も、校外で何らかの活動しており、運動への関心は高いと言える。 ○体力テストでは、総合的に全国平均を上回るが、持久力や柔軟性にやや劣る。 ○う歯罹患率は低い、むし歯保有者の治療率が低い。	○保健便りの発行や参観日等で健康管理に対する保護者の意識向上を図る。 ○耐寒訓練や持久走大会を継続実施し、部活動でも持久力や走力の向上を図る。 ○時季に応じた健康指導の徹底と外部講師の積極的な活用により、食育指導の推進を図る。 ○毎週月曜日をリフレッシュデーとし、適度な休養も確保する	B	○部活動加入率が77%と高く、生徒は意欲的に活動し、市や県の大会で好成績を収めている。生徒は自信と誇りをもって精進を重ねている。 ○生徒会活動を前面に押し出した体育大会は素晴らしく、生徒の競技にかける意気込みと迫力がある。 ○健康に関する自己管理意識を高めるために、健康指導と食育指導の充実を図ってほしい。
	本校は、保健体育の時間でも体力づくりのため計画的・組織的によく取り組んでいる。	81 86	76 82	43 72				
	生徒は、健康保持のため早めの治療を心がけるなど健康に関して自己管理の意識が高い。	73 74	72 73	57 72				
人間関係づくり	生徒は、諸活動の中で互いに協力したり助け合ったりして、共に伸びていこうとする雰囲気がある	83 89	85 86	57 72	○どの学年もいじめや仲間はずし等がなく、互いを大切にしようとする心が育ってきている。 ○教師は、生徒とのコミュニケーションや助言指導を十分行っており、生徒や保護者の評価も高い。 ○来校者や地域住民等へのあいさつはきちんとできており、高い評価を受けているが、まだ不十分との指摘もある。 ○地域行事への中学生の参加が少ないとの指摘を多く受けている。部活動との兼ね合いが難しいが、保護者や部顧問の理解はある。	○日常の観察やアンケート等により生徒間の人間関係の実態把握と問題への早期対応に努める。 ○道徳教育や教育相談の充実を通して、思いやりの心や望ましい人間関係の醸成を図る。 ○小学校との情報交換を密に行い、中学校生活へのスムーズな移行を図り、学校不適應や不登校生を出さない学校づくりに努める。 ○家庭の日（第3日曜日）は部活動を停止し、地域行事へ参加できる体制を作る一方、学校の教育活動も地域に積極的に発信し、交流推進に努める。	A	○いじめ行為は見逃さないという指導体制の下で、どの学年にもいじめや仲間はずしはなく、互いを大切にしている。生徒と教師の信頼関係を大切にしている。 ○本校の特色は、生徒会活動を中心にした生徒の自主活動を大切にしていることである。その成果が随所に見られるが、特にあいさつ運動の推進が素晴らしい。今後も生徒の自主活動を高く評価し、自信に満ちた表情豊かな生徒の育成に努めてほしい。 ○成人式、産業文化祭、敬老会等の地域行事に積極的に参加している。今後もそうした地域行事への参加活動を大事にしてほしい。 ○学社融合の教育を推進し、地域とのかかわりを大切にしている。
	本校は、いじめや仲間はずし等がなく、生徒に思いやりの心が育っている。	79 93	77 84	79 72				
	教師は、生徒の声によく耳を傾け、問題解決に向けて様々な助言やアドバイスをしている。	95 95	96 88	93 93				
	本校の生徒は、地域の人たちに元気のよいあいさつができています。	88 86	76 73	93 86				
	本校の生徒は、地域の行事によく参加している。	40 50	51 51	54 86				